

更にWAKUWAKUする

市民と協働で展開する

政策をご提案

園田議員

(1)入国管理センター跡地について

前回、ドッグラン整備を提案した現地は、多目的スポーツ広場としての利活用がほぼ決定しているといわれている。そこで、森園公園の一部スペースをドッグランに整備することを含め、総合的なリニューアルを提案する。

(2)長崎ラベンダーと緑のふれあい館の活用について
①大村で品種開発された「長崎ラベンダー」を官民協働で「長崎ラベンダーティー」というハーブ茶へ発展させ、新たな特産品とすることを旨としていくべきである。また、

公園内にある「緑のふれあい館」の利用促進も含め、1階部分をベットとして運営。ここは当然「長崎ラベンダーティー」を目玉としたカフェとする。

②同2階部分の活用については、近隣に給食センターの建設が予定されているという立地条件を活かし、一般成人を対象にした「給食ランチカフェ」の運営を提案する。これは成人をターゲットにすることで、新たな歳入確保として効果が期待できるとともに、生活習慣病の予防や食育について大人たちが学ぶということにもつながると考える。

市長 (1)ご提案のドッグランについては入国管理センター跡地利活用検討委員会で検討したが、衛生面の課題があることや、市民のスポーツ施設が充足されていないことなどから困難であると判断し、スポーツができる多目的

広場としての利用で、ほぼ決定ということでご理解いただきたい。森園公園における提案については、今のままでいいのかという思いもあり、次世代政策研究でも調査・研究中である。ご指摘の緑のふれあい館周辺につい



緑のふれあい館

ても一つの提案として検討に値すると思っている。

副市長

(2)①長崎ラベンダーは城南高校で開発されたということで、これをどう生かしていくかを考えていかなければならないと思っている。提案のラベンダーティも一つの方法であると思う。

市長

(2)②子どもたちがどのような給食を食べているのか保護者の方などに実際に食べていただくことはいいいことだと思う。

緑のふれあい館で、給食などを提供できれば、食に対する関心が高まり、交流体験にもつながる。貴重な提言であり、検討していきたい。

(その他の質問事項)

・第3次保育所整備計画について
・自殺対策について

公共施設のあり方は長期的な視野が必要不可欠

村崎議員

(1)公共施設のあり方について

大村市内の公共施設(学校・清掃センター・公民館・出張所等)は老朽化している。今後15年以内に、改修・立替を余儀なくされ、大きな財政負担(隠れ借金)である。当局は各部課が所管している公共施設の改修計画を一元化して把握しているのか。老朽化が進んだ施設から場当たりに対処しているのが現状だ。公共施設の効率化、市民ニーズの反映性、財政見通しの顕在化といったメリットを見込み、以下の2点を提案するが、見解を

聞かせていただきたい。

①公共施設の施設整備計画を策定し、優先順位、財政見通しを明確にすること、②公共施設の維持管理を一元化して全体最適を図る担当課、もしくはプロジェクトチームの設置。

(2)職員の新規採用について

新卒職員の採用が再開された。今後も継続していくべきだと考えるが、どうか。採用においては、大村市がどのような職員を求めているのか具体的なメッセージを発信するべきではないか。採用時期が9月以降だとあまりに遅く、民間企業に合わせて前倒しできないのか。画を策定することは必要である。横断的なプロジェクトチームを構成して施設の状態を一括して把握し、優先順位や財政見通しと合わせて平成22年度中に一つの方向付けが提案できるよう取り組みたい。

市長 (1)10～15年後の施設の状態を考慮し、整備計画

市長 (2)行政改革に伴い、

新規職員採用を抑制してきたが、将来の組織の硬直化が懸念される。今後は、幾らかでも継続して採用する方針である。

副市長

(2)大村市では、求められる職員像として「市民の目線で考え、市民と対話する職員」、「コミュニケーションを大切に、相手を思いやる職員」、「向上心を持ち、新たな課題に挑戦する職員」を掲げているが、どこまで伝わっているのかということはある。求められる人材は毎年変わっていく。明確なメッセージを掲げ、それが伝わるような取り組みを取り入れていきたい。新規採用の時期については、早期退職者の数などを見極める必要があることから、7月に募集し、9月に採用試験を実施している。もう少し早く取り組みないか検討したいと思う。

(その他の質問事項)

・県庁舎誘致と市町村合併について

